

## 透析液清浄化と部材劣化を考えた洗浄方法の検討～第2報～

三浦 啓道<sup>1</sup> 土屋 敬<sup>1</sup> 高岡 伸次<sup>1</sup> 磯崎 泰介<sup>2</sup> 工藤 真哉<sup>3</sup>

聖隷浜松病院<sup>1</sup> 聖隷浜松病院 腎臓内科<sup>2</sup> 聖隷浜松病院 泌尿器科<sup>3</sup>

### 【背景】

血液透析用患者監視装置 DCS-73（日機装）において、洗浄剤による部材劣化を経験し、洗浄方法を見直し、昨年の本会で報告した。その後1年が経過し新たな課題が発生したため、経過と対策・現状を続報する。

### 【方法】

DCS-73 の部分劣化に対し、洗浄剤の変更（アムテック社製 ECO-200 をディースリー社製エキスパート D へ、アムテック社製サナサイドをエーエヌテック社製キュアーX へ変更）、薬剤封入時間短縮、使用濃度の変更を行ったが、透析液清浄度は標準透析液レベルを保った。しかし変更後約1年経過した頃よりカスケードポンプ表面へ錆の付着が認められた。また変更前からの課題であったサンプリングポートの劣化も改善が無かったため、高濃度シングルパスと低濃度封入を取り入れた洗浄方法へと再度変更した。

### 【結果と課題】

- 1) 施設の状況に応じた配管洗浄法が必要である事を再認識した。
- 2) 錆の完全な除去は困難であり、除錆効果を有する洗浄剤の導入や、適正な水質を担保可能な最良の洗浄方法を継続的に検討して行きたい。